

第4回 2011年7月出発 参加者

●夏目 矩行さん、ホスト：ソウル大学校

1. 応募したきっかけ

指導教授から Summer institute を紹介して頂いた事がきっかけでした。英語があまりできないのに海外で研究生活を送れるのだろうかと不安で、申し込むのを躊躇していましたが、指導教授や研究員の方々の後押しや、海外での研究生活が私にとって非常に良いチャンスであり、良い経験となると思い応募する事にしました。

2. 事前準備

研究等の事は、事前にホスト研究室の教授と私と当研究室の教授とで何度かメールでやり取りを行なって、準備を進めていきました。語学に関しては、研究面では主に英語を使用するかと思ったので英会話や研究用語を、また生活面では韓国語を使用すると思い韓国語会話の本を一冊購入し、少しずつ勉強していました。

3. 現地研修

現地で行なった3日間の文化研修では、韓国伝統衣装、キムチ作りなどが非常に楽しく非常に貴重な体験となりました。また語学研修は、一ヶ月半の研究生活の中でホスト研究室メンバーと仲良くするツールとして非常に役立ったと思います。

私の研究は、植物などの天然物から骨粗鬆症などの骨代謝系疾患を予防・治療するための薬やサプリメントとなる化合物を探索し、その化合物の細胞に対する作用機構解析を行なっています。ホスト研究室では一ヶ月半の間、作用機構解析を行なう手法の一つである「Western Blotting」や「PCR」等について学び、その研究を行なっていました。

4. この研修を通じて得たもの

今回の研修により、改めて英語の必要性やコミュニケーションの重要性に気づかされ、英語を勉強しようと思えました。また、私の研究に対する視野を海外に向けることができ、海外に強い興味を湧くようになりました。

今回の研修で得た最も大きなことは、ソウル大学の先生

や多くの研究員、学生と知り合えたことであり、今後もこの繋がりを大切にしていき共同研究など、今後も私の研究室との繋がりを続ける事ができたらよいなと思います。

5. 参加する人へのアドバイス

研究内容に関しては、ホスト先の教授や研究者とやり取りをし、準備をしっかりとしておく研究がスムーズに行なえると思います。研究する上で英語は必要不可欠であると思うので、研究に必要な英単語などを覚えておく、先生や学生との議論が行なえると思います。また、韓国で生活するうえで必要な韓国語を覚えておく、買い物や食事などが非常に楽になります。

最後に、海外での研究生活に最初は不安があると思いますが、実際行ってみれば先生も学生も親切にしてくれると思いますし、何より自分をさらに成長させる良いチャンスなので、楽しんでいく事が大切だと思います。

